



奥原が、全試合ストレート勝ちで女王の座を手にした。1ゲームを先取し、20-18で迎えたマッチポイント。クロスに狙いましたが、コートに落ちると、床にあおむけになり手で顔を覆った。息を切らしながら「本当にうれしい」とうれし涙が頬を伝った。

自他ともに認める根っからの負けず嫌いだ。高校時代、大会など授業を離れることが多いにもかかわらず、得意な

数学のテストで納得できない点数を取るのは許せなかつた。練習の合間に勉強し、学年トップの成績をキープした。練習でも手を抜きたくないと、コーチが止めるまで動き続ける。プレーが思うようにいかないと、悔しくて涙を流す。その勝負へのこだわりが、そのまま土壇場での強さにつながっている。

4年ぶりの全日本選手権優勝に続く、世界一のタイトル。「充実して1年を締めくくれた。五輪のメダルが見えてきた」と自信を漂わせた。

◆奥原希望（おくはら・のぞみ）1995年（平7）3月13日、長野県大町市生まれ。6歳でバドミントンを始める。埼玉・大宮高2年で全日本選手権を史上最年少で優勝。同3年では世界ジュニア選手権で優勝。利き腕は右。156cm、52kg。世界ランク9位。

◆スーパーシリーズ 世界バドミントン連盟が2008年から実施している大会。種目は男女シングルス、男女ダブルス、混合ダブルスがあり、今年は12戦。日本ではヨネックス・オープンが同シリーズに当たる。五輪や世界選手権に次ぐ大会といわれ、参加できるのは世界ランク上位選手。スーパーシリーズ・ファイナルは同シリーズのポイントを集計し、各種目上位8人（組）が集結して頂点を争う。

必殺ヘアピン
相手のスマッシュがネットにかかるて試合が終わるト「よつしゅー」とほえ、左手で力強くガツッポースをつくった。一格式ある大きな大会で優勝できつれしい」と笑顔があふれた。

両脚にテープを施す

し、本来の動きではない。それでも得意のネット

甘いロブを上げさせてスマッシュをたき込んだ。第2ゲームでは、ネットに弧を描くように柔らかく落とす得意の「ヘアピ

ンショット」で12点目を奪

う。守備でも「決め球をしきりに弧を描くように柔らかく落とす得意の「ヘアピ

ンショット」で12点目を奪

バドミントン スーパーシリーズ・ファイナル

最終日

◇13日 00:00~

ドバイ△決勝

・トニー△決勝

・王△決勝

